千代田区立
日比谷図書文化館
Hibiya Library & Museum

報道関係各位
プレスリリース

2022年６月９日

翻訳者が語る　世界文学への旅２

現代ロシア語文学の多様性

アンドレイ・クルコフ/著、沼野恭子/訳
『ペンギンの憂鬱』（新潮社刊）

日比谷図書文化館では７月30日（土）に「翻訳者が語る　世界文学への旅２ 現代ロシア語文学の多様性」の講座を開催します。

「翻訳者が語る　世界文学への旅」は、現代海外文学の翻訳者を講師に迎え、様々な国や地域の文学を紹介する講座シリーズです。第２弾となる本講座では、ロシア文学・文化の研究者で、翻訳も手掛ける沼野恭子氏を講師に迎え、ロシア語で書かれた現代小説のうち、ロシアを代表する作家リュドミラ・ウリツカヤ、歴史推理作家ボリス・アクーニン、ウクライナの人気作家アンドレイ・クルコフ、ベラルーシの証言文学の旗手でノーベル文学賞作家スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチらの作品を取りあげ、その特徴や魅力についてお話しします。またこれらの作家たちが、今回の「プーチンの戦争」を含め現代社会をどう捉えているのかということも取り上げます。

ロシア語で書かれた文学は、ロシアだけではなく隣国のウクライナ、ベラルーシにもあります。ロシアによるウクライナ侵攻がいまだ収まらない現在、同時代を生きる同地の作家たちがどのような文学を紡いできたのか、いまこそ学んでみるのはいかがでしょうか。

講師　**沼野 恭子（東京外国語大学総合国際学研究院教授）**

専門はロシア文学・文化、比較文学。NHK国際局ディレクター、ハーバード大学日本語講師を経て、東京大学大学院博士課程満期退学。2008年より現職。NHKテレビ・ラジオのロシア語講座の講師も務めた。著書に、『100分de名著――アレクシエーヴィチ「戦争は女の顔をしていない」』（NHK出版）、『ロシア万華鏡――社会・文学・芸術』（五柳書院）、『夢のありか――「未来の後」のロシア文学』（作品社）など。訳書に、『ヌマヌマ――はまったら抜けだせない現代ロシア小説傑作選』（沼野充義と共編訳、河出書房新社）、ウリツカヤ『ソーネチカ』、クルコフ『ペンギンの憂鬱』（いずれも新潮社）、アクーニン『リヴァイアサン号殺人事件』（岩波書店）など。

開催概要

- ○ 日時：７月30日（土）14：00～15：30（13：30開場）
- ○ 会場：日比谷図書文化館　地下１階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- ○ 定員：100名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- ○ 参加費：1000円
- ○ 申込方法：ホームページの申込フォーム、電話（03-3502-3340）いずれかにて、①講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。

〈 お問い合わせ先 〉
千代田区立日比谷図書文化館　広報担当：並木 namiki-yuri@shopro.co.jp、岡本 okamoto-yoriko@shopro.co.jp
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4 TEL：03-3502-3340/ FAX：03-3502-3341
ホームページ：https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/